

第7回 斐伊川水系 生態系ネットワークによる大型水鳥類と共に生きる流域づくり検討協議会

議事要旨

あいさつ

事務局

今年度は、2年連続で雲南市においてコウノトリの幼鳥が一つの巣から4羽巣立ち、出雲市では7月からトキの一般公開が本格的に始まった。また、斐伊川の河口に本州では結構珍しいタンチョウが1羽飛来した。この斐伊川水系は、水鳥の生息環境に望ましい所だということが、改めて実感できた。

この協議会の取り組みというのも平成27年から始まっていてもう5年目を迎えていた。本日は事務局の活動、また、市やNPOの活動についても報告があると思う。また、全体構想についても、ご審議いただく予定。

議事

議事（1）協議会の規約の変更案等について

（「資料1：協議会の規約の変更案等について」、「参考資料1：協議会等の規約及び体制変更案、および、斐伊川水系生態系ネットワーク全体構想（案）に関する意見照会結果」の説明）

（特に異論や意見はなく、案について了承された）

議事（2）斐伊川水系生態系ネットワーク全体構想（案）について

（「資料2：斐伊川水系生態系ネットワーク全体構想（案）」「参考資料1：協議会等の規約及び体制変更案、および、斐伊川水系生態系ネットワーク全体構想（案）に関する意見照会結果」「参考資料2：斐伊川水系生態系ネットワーク全体構想（案）について」の説明）

委員 本当によくまとめていただいたと思う。その上でさらに一点。地域として生態系ネットワーク形成や形成を通じた地域振興の取り組みは、地域住民の理解がないと広がらない。そこは普及や広報だけでなく、地域住民にとっても行動につながる、また、その行動が地域の恵みにつながるような活動も広げてほしい。

委員 関東エコロジカルネットワークでは、経済的な成果を挙げた例も報告されている。関東管内での事例について紹介いただきたい。

（公財）日本生態系協会 経済に結びつけていく方法は大きく二つあり、一つは農業や水産業の付加価値付けが指標種によって高められるというもの。もう一つが観光振興。千葉県いすみ市においては、コウノトリに来てほしいということで、無農薬・無化学肥料でコメを生産し、それを市が全量買い取り、市内の義務教育の小学校、中学校、そして今では保育園すべての給食で米を提供している。お金はかかってもそれだけ市が買い取って出すということでインセンティブを付

け、コウノトリを呼び込みやすい田を増やす取り組み。そこにイオングループがチアーズの取り組みを通して興味を持ち、店頭でいすみ市のコメを販売するという展開まで来た。

他地整の例としては、四国の吉野川の流域では鳴門市のレンコン畑にもコウノトリが来て付加価値がつき、関東の市場に売り出している。さらに鳴門市の農家が北海道のタンチョウを保全する農家の取り組みを視察するといった、協議会の枠を超えた人的交流もできてきている。

委員 いすみ市は千葉県の南側に位置し、3.11の東日本大震災でも被災した地域。景観を軸に映画の誘致をして、映画で取り扱っていた食堂が注目され、地元の食材供給が追いつかないという状況が生まれたり、米についてはイオンにどうやって供給するのかということで逆に需要のほうが大きくて供給体制が追いついていかない、という非常に前向きな悩みを抱えていたりする。

委員 斐伊川の河口部付近は、流域全体の中でも特に水鳥にとって重要な場所。河口の両側は水田地帯で、現在は非常に水鳥にとっては良好な環境だが、左岸側の水田地帯は国の圃場整備の計画があり、影響が心配される。ここを今後もこれらの大型の水鳥たちが利用可能な水田として残し、かつ、農地として利用しつつけていくことを、調整しながら進めていくことが重要になる。

全体構想の中にはこうした文言があまり見当たらないので、その重要を明記したうえで、環境保全と利用について考えていく必要がある。

委員 今までの河川行政は堤外地についてのみ対応して来たが、グリーンインフラの概念に立つと堤内地と堤外地はシームレスな関係にあり、どのように防災・減災を進めるかが重要になる。グリーンインフラの考えは大型水鳥類の保全、または生態系にとってもプラスになる。諸省の概念も少しずつ広げ、こうした取り組みについて協議会の場で取り上げていくことが重要になる。

自治体に向け情報提供とお願いを一点。生態系ネットワーク形成の取り組みへの活用に、森林環境譲与税を是非検討してほしい。自治体ではどのように使っているのか分からない、という話も聞くが、支給額も今年増額されると聞く。農林水産省の大臣官房環境政策課が新しい施策を打ち出す可能性がある。

委員 今回、斐伊川水系生態系ネットワークの全体構想を昨年に引き続き報告いただいたところだが、川の中の方はどのような進捗状況となっているか。

事務局 今、並行して検討を進めているという状況。

事務局としては、この全体構想も随時更新していきたいと考える。議論の熟度に応じて全体構想に反映できるよう、引き続き努力していきたい。

委員 斐伊川の河口における浅場整備事業は、現在も継続して行っているのか。

事務局 河口の砂の堆砂状況を見ながら、掘削時には、事業の環境への影響に配慮しつつ、浅場の維持を続けていきたいと考えている。

委員 河川行政としては、今後も大型水鳥類の生息地づくりに配慮しながら、適時事業を進めたいという意向を持っているということで良いか。

事務局 そのとおり。

委員 理解した。調査とあわせ、今後も大型水鳥類の生息地づくりを進めていただきたい。

環境省 この全体構想は今後も更新されていく予定とあったが、「案」はいつ外れるのか。

委員 「案」は今日、この協議会で取れるということで良いか。

事務局 そのとおり。

委員 では、全体構想を「案」のないものとしたいが、問題ないか。

(特に異論や意見はなく、案について了承された)

議事（３）令和元年度活動状況報告

(「資料３-１：専門ワーキング報告」の説明)

(「資料３-２：出雲・雲南地域における活動報告」の説明)

(「参考資料３：圏域の大型水鳥類に関するトピック」の説明)

委員 トキの一般公開については、西日本でただ１か所トキが見られるという宣伝文句にしては、入場者数が少なかったと考えている。様々な仕掛けを展開することで、トキを見に来るリピーターを増やさなければ、今後來館者は減っていくと心配している。

また、トキがどのような鳥なのか、地域への理解がある程度進んだことを受け、「いずれの空へ2025 朱鷺復活プロジェクト」というようなプロジェクトを立ち上げた。これから今度はトキを放鳥して空を飛ばそうというふうな目標に向かって、本協議会の皆さまを含めた、様々な団体と連携しながら、トキがくらせる環境保全型の農業であるとか、トキの野生復帰を受け入れる地域づくりの普及活動、調査研究等を進めていきたい。今は施設の中で見るだけのトキが、今度は見上げるトキにしていきたい。

雲南市 市では、コウノトリと共生するまちづくりビジョンを昨年度策定し、今年度はこれを具体的に達成するためのアクションプランの策定を手掛けている。このアクションプランの作成にあたり、大正大学に協力をいただき市民アンケートを取った。その結果、まず雲南市のコウノトリのまちづくりに関心があるかという設問に約８割以上が賛成との回答が、コウノトリの生息数

が増加するための活動意志があるかという設問には 7 割以上の方が何かしたいという回答を得た。コウノトリをシンボルにした取り組みは心に響くものがあると感じている。また、コウノトリを一度でも見たことがあるかどうかで、コウノトリをシンボルにした取り組みに対する賛同数に有意な差が出る結果となった。シンボルとなる生き物を実際に目にするかしないかで、この活動の伝わり方は大きく違うのではないかと考える結果だった。

委員 過去に雲南市を訪問した時、『人もコウノトリも幸せな街に』と書かれた小学校 6 年生の手作りポスターがあり、感動を覚えた。

報告を聞いて、二つの問題点がコウノトリ、トキについてあると感じた。一つはトキの佐渡以外の地域における野生復帰についてはどんなスケジュールが検討されているか。もう一つは農地環境をどのように確保していくか。

環境省 本省で、佐渡以外の場所でのトキの野生復帰について今どういう考えを持っているのかは承知していない。今日の議論を伝え、情報収集も図っていききたい。

この山陰の斐伊川水系は、水鳥の生息という意味では大変良好な環境が今も維持されていると強く感じている。私たちが担当する大山隠岐国立公園エリアとの一体的な振興に寄与していけると考えている。

委員 トキの野生復帰については、実際は佐渡の意向が鍵となっているようだが、こちらの受け入れ態勢の進捗状況を本省に上げていただければありがたい。

農林水産省 中山間地域に関連する交付金をもう少し増やしていきたいであるとか、中身を手厚くしていきたいという方向で、農林水産省の政策は検討が進んでいる。環境保全活動に活用可能な多面的機能支払については、今年で 6 年目になる。中山間地域をどうしていくかは中国四国農政局でも一番大きなテーマであり、関係市町ご意向も踏まえ、支援していきたい。

資料 3-2 の出雲雲南地域の活動報告、田んぼで生き物探しをしていたが、11 月とか 10 月に観察会でどれくらい生き物がいたのか。理由があればお聞かせいただきたい。

委員 今回の観察会に関わった自分からの報告。バッタ等も少し確認できたし、水棲生物は結構たくさん捕ることができ、子供たちが満腹になるぐらいいろんな種を観ることができた。

本当はもう少し早くに開催できれば良かったが、それなりに成果はあったと思う。

委員 冬の水田も生物多様性上大切。トキは冬も日本に生息するので、冬の水田に生き物がいなければそれは環境に問題があるということ。圃場整備等の環境変化が問題になっているところもある。ぜひそういったところも知ってほしい。

報告のあった写真展について、米子水鳥公園でも正月にかかる形で実施した。元旦から開園し、帰省者等地元の方でない人々にも来ていただき、この写真展に触れていただいた。

議事（４）愛称・シンボルマークの選定について

(「資料4：愛称・シンボルマークの選定について」の説明)

委員 この議事について、少し補足したい。この選定の検討については、地域振興ワーキングにおける皆様に尽力いただいた。かつ、この愛称なりシンボルマークというものは、活動に与える影響は大きい。

昔、大阪万博の開催の時、新幹線に乗るときには大阪万博の袋を持って乗るよう関係者に指示があり、それに従ったところ、その袋が多くの人目に留まった。それが日本人口の約半分にあたる人が訪れるという結果につながったことがあった。

一点確認したい。資料では、座長がデザインを決定するかのような書き方をしているが、これは案を取る役割を持つ、ということで良いか。

事務局 その通り。

委員 理解した。この事務局の方向について承認をとりたいが、良いか。

(特に異論や意見はなく、案について了承された)

委員 一般に環境問題は各論になるといろんな思惑が絡み前進しないという問題がある。そうした中、これから進めるぞというところまでできたと本当に実感している。

地球温暖化に関する課題について、環境省から依頼を受け、まして中国地区で全国2番目のシンポジウムを、中経連でも引き受け、広島で今年の春に開催する予定。

環境問題について、中国地方全体としてやはり先進地域でありたい。今後ともよろしくお願い申し上げたい。

閉会

事務局 次回の協議会については、来年度、この時期を予定している。日程についてはまた改めて連絡する。

以 上